

(2) 1983年10月23日

本日は宍粟郡の公文、小原地方のメスアカが目的である。福知であれだけ採れるのであるから一宮町一帯にはまだまだ多産地は多いはずである。ところがあいにくの雨である。アクセルを踏む右足が重い。車の窓越しにヤマザクラを捜し、道沿のものだけ調べる事にする。公文あたりではウラジロガシ、マンサク、コメラに混ってヤマザクラも多い。目ぼしをつけた木には少しずつついている。

午後からは大雨になり、外に出られない。P.M 3:00

P.M 3:00 1本のヤマザクラより実に17卵からなる卵塊が見つかった。太枝の分岐部である。少し離れた所からみると真白に見えるのですぐわかる。メスアカの17卵塊は非常に珍しく、私は初めてである。せいぜい2卵~4卵塊しかみたことがなかった。しかし、こういうのに限って(つまり、人に見つかり易いものは)寄生バチにも見つかりやすく、内15卵が寄生されている。それにしてもゼフィルス(ゼフィルス)の卵塊の数のデータを集めればおもしろいではなからうか。コナラからはダイセンが1卵見つかったのみであった。

本日の成果

メスアカミドリ	49卵 (ヤマザクラ)
ダイセン	1卵 (コナラ)

(1983. 11. 23記)

兵庫県におけるアオドウガネの分布 (兵庫県甲虫相資料・144)

高橋 寿郎

山手短大、田中 梓教授が1983年8月26日の神戸新聞自然随筆欄で神戸のポートアイランド南公園でヤマモモをはじめ各種の樹木に群がってヤマトアオドウガネが葉を食っていたと書いておられた。早速筆者も同年9月5日南公園に行ってみた。ヤマモモには注意して見たがこの虫を見付けることは出来なかったが、丁度咲いていたハギ(ミヤギノハギ?)に可成りの数の個体を見た。公園であるから網を持って行っていなかったが、害虫駆除と手でもって25♂♂ 13♀♀を採集して持って帰った。帰宅後交尾器を摘出して詳しく調べて見たが、筆者が採集して帰ったものは全部アオドウガネと同等すべきものであった。田中教授との観察時期が違うので此の公園にはヤマアオドウガネと両方いるのかもしれない。ところでアオドウガネの方が県下にどの様に分布しているのか、筆者の手許にそ

こそこの資料があるので、一応県下に於ける分布状況について概説させて頂き度いと思う。中田隆昭氏も「阪神地方のアオドウガネ」に就いて報告されているので(Crude, No. 23, 1982)参考にさせて頂いた。

Anomala albopilosa (Hope, 1839)

アオドウガネ

本種は F. W. Hope が "A Monograph on Mr. William Sharp Mac Leay's Coleopterous Genus *Euchlora*" (Proc. Zool. Soc. London, VII, pp. 65-75, 1839) なる論文の中で (p. 70) Leyden の友 De Hean より送られた標本であるとされ、それに基づいて *Euchlora albopilosa* として新種記載された種である。産地は Japan とのみになっている。

Waterhouse の 1875 年に発表した "日本の鯀角類について" (Trans. Ent. Soc. London, Part. I. p. 71-116, pl. III) の中ではただ単に産地 Japan として種名のみ記録されている (p. 112, 属名は *Euchlora*)。

Lewis の "日本産甲虫目録" にも番号 1000 で *Euchlora* 属で記録されているが、全く産地は書いていない。

ところが Schoenfeldt, H. v. は "Catalog der Coleopteren von Japan mit Angabe der bezuglichen Beschreibungen und sicher bekannten Fundorte" (Jahrb. d. nass. Ver. f. Naturkunde, 40:31-204, 1887) の中で p. 109 に *Euchlora albopilosa*, Kiushiu, Hiogo として記録している。即ち本種が兵庫に産すると記録さ



兵庫県におけるアオドウガネ分布概念図
○ SP ヤマトアオドウガネ

れたのはこの Schoenfeldt の目録が始めてになると考えられる。

E. Reitter は " Bestimmungstabelle der Melolonthidae aus der europäischen Fauna den angrenzenden Ländern IV. Theil. Rutelini, Hopli & Glaphyrini, " (Verh. Naturforsch. Ver. Brünn, 41, p. 28-158) の中で *Anomala* 属に移されると共に新亜属 *Euporchlora* を創設 (p. 64) 之に属せしめられた。同時に日本産 *subsp. immarginata* を記載している (p. 65)。これは 後三輪・中條両博士の " 日本産鞘翅目分類目録 " (1939) では変種として扱っておられる (p. 41)。勿論現在はその様な扱いはしていない。

Arrow の 1913 年の " 日本産鋸角類について " でも産地を Japan とのみで種名が出ているだけである (*Anomala* 属としている)。新島・木下両博士は名著 " こがねむしに関する研究報告 (第二) " で図説をされた。その中で産地に Hiogo がふくまれているが、之は本巻がオリジナルでは無く前記 Schoenfeldt の引用だと考えられる。

戦前の図鑑類にも割合図説されている (新島, 1932. 神谷・安立, 1933. 加藤, 1933. 江崎, 堀, 安松, 1938)。そして沢田玄正博士は " ドウガネとその近似種 " によって詳しくこのグループの検討をされた (関西昆虫学会々報, Vol. 12, No. 1: 41-49, 1942)。

前記新島, 木下両博士の論文で本州, 四国, 九州, 対島の分布が報告されたが岡本半次郎博士は済州島から記録され (Bull. Agr. Exp. Sta. Gov. Vol. 1, No. 2, 1924), 同時に南部, 中央部 朝鮮には大変多いとされている (p. 176)。朝鮮での分布状況に就いては金昌煥 " 韓国昆虫分布図鑑, 第 2 篇 " (1978) に詳しく図説されている (p. 348, pl. 35, sc 29)。

屋久島からは竹内吉蔵氏 (関西昆虫学会々報, No. 2, 1931), 神谷一男氏 (あきつ, Vol. 1, No. 3, 1938) が夫々記録している。

Medvedev の " Fauna U.S.S.R. X (3) " にも図説されている (p. 140-142, f. 24, 1949)。分布で日本は九州とのみになっている。

戦後も次のような原色図説がある。

伊賀正汎氏 (1955), 野村 鎮氏 (1963), 林 長閑博士 (1975), そして中島敏夫博士による詳しい図説がある (林業害虫としてのコガネムシ類, 1957)。

奄美大島とトカラ諸島にいるものに Schoenfeldt が *var. gracilis* として 記録したものが、現在では亜種として扱われアマミアオドウガネとされている。沢田博士は沖縄本島, 宮古島, 石垣島に産する亜種 *yashiroi Sawada* オキナワアオドウガネ を記載され基亜種との区別を記載された (東京農大農学集報, Vol. 2, No. 2, p. 279-280, 1950)。

野村 鎮氏は西表, 石垣, 宮古島産亜種 *sakishimana*, 与那国島産亜種 *yonaguniana* を共に記載された (Toho Gakuho, No. 14, 1964)。前者は後 Hateruma Is., Irabu Is., Shimoji Is.

にも分布することが報告されている (Entom. Rev. Japan, Vol. 22, No. 2, 1970)。

現在原名亜種の分布は本州, 四国, 九州, 対馬, 屋久島, 種子島, トカラ諸島中之島, 国外で済州島, 朝鮮と言うことになると思われる。

野村氏 (1963) も林博士 (1975) も本州 (西部) と分布をしておられる。本州のどのあたりまで分布しているのだろうか。筆者の所有文献が貧弱なのでよくわからなかった。

大場信義氏等によってまとめられた "三浦半島のコガネムシ類" (Sci. Rep. Yokosuka Mus. No. 28, 1981) によると 横浜, 多摩丘陵方面では普通であるが, 三浦半島ではきわめて少いと (p. 33)。平野幸彦氏がまとめられた "神奈川県甲虫" (1981) によるとアオドウガネの記録がなく, 神奈川県でのアオドウガネとされているのはヤマトアオドウガネのようであるとされている。最近榎戸良裕氏は神奈川県城ヶ島での記録をされ, 房総半島, 伊豆半島, 伊豆諸島には分布していないようだと言及されている (月刊むし, No. 150, 1983)。

平山修次郎氏が東京井之頭産 (20-Ⅷ-1932) で原色図説されたもの (1933, 1940), 渡辺福寿氏が青森, 宮城, 岩手県産として記録されたもの (森林動物相調査報告, 第一輯, 金亀子科, p. 36-37, pl. 10, f. 20, 1937) で共にアオドウガネとされている種はヤマトアオドウガネのことらしい (沢田, 1942)。そうなると竹内誠一氏の岩手県の産もヤマトアオドウガネになるのかもわからない (岩手県甲虫誌, 1939)。

福井県からも美しい原色図でアオドウガネが記録されている (原色福井県昆虫図譜, pl. 9, f. 5, 1938) がこの図だけではヤマトアオドウガネかどうかは良くわからない。

新潟県からはヤマトアオドウガネは割合いるようだがアオドウガネは見られなかった (中根, 馬場, 1957., 樋熊, 1964., 馬場, 1972)。

兵庫県からの記録は 1887 年の Schoenfeldt による Hiogo 以後ほとんどなく, 1933 年に関公一氏が御影町を記録されたのが日本人による県下での初めての記録になると思はれる (大上宇一氏の記録にはふくまれていないようである)。氏は 1934 年にも "大阪・神戸付近の金亀子虫" の中にも記録しているのであるが両方ともデータが全くついていない。従って後者の報告などは何処に分布しているのか全く見当がつかない。

1937 年には北村達明氏が出石郡神美村から記録されたが単に和名だけである。更に須磨からも記録されたがこちらもデータが無い。以上の記録は同定が出来ているとしてもどの様な状態であったのか全くわからない。記録としては大変不親切なものである。増田, 橋本両氏も摩耶山麓を記録 "燈火に飛来するも稀" と記していてデータは無い (1941) (筆者の 1941 年に発表した報文も上記, 記録によった)。

以上の記録もふくめて県下の記録と筆者の採集所有しているデータに基いて県下の分布を眺めて見

たい。

淡路島では洲本市安平町、先山、山武牧場の記録が堀田氏によってされている（1959, 1974, 1976, 1979）。筆者は神戸昆虫同好会の例会として岩屋で採集会が開催された時参加して海水浴場のそばの小高い山地で3♂♂, 2♀♀を採集（4-VII-1957）他にも割合いたのを目撃した。恐らく淡路島には可成り普通に見られる種だろうと考えている。

川西市は中田氏が大和東、能勢口駅を記録しておられ仲田氏の報文〔1978, 1982〕にも大和、笹部とある。このあたりには広くいるのではないだろうか。更に中田氏は宝塚市中山寺、芦屋市奥池を報告しておられる。

神戸市に入ってから前記の御影、摩耶山、須磨、西垂水の他に筆者は次のように採集している。ポートアイランド（25♂♂, 13♀♀, 5-IX-1983）（この中に1♂前脛節の外歯が全く無い、即ち前方が截断状になった変形のものがあった）。烏原（1♀, 3-XI-1976）、舞子（1♂, 11-VIII-1982, 1♂, 1♀, 11-VIII-1983）。従って神戸市内の海岸に近い所には広くいるようである。

明石市の明石公園では1♀, 18-IX-1976, 1♀, 10-VII-1977を採集している。この地にはヤマトアオドウガネも産する。飾磨郡雪彦山麓でも採集出来た（1♀, VII-1955）。さらに西へ行って赤穂市の天和の浜でも採集出来ている（1♂, 21-IX-1974）。隣接県であるがこの地よりやや西へ行った岡山県和気郡伊里中でも1♀を採集している（10-VIII-1959）、この地も海岸に割合近い所である。こうして見ると海岸線にそった地域にはずーっと分布している種と考えられる。所が前にも記したように出石郡での記録がある他筆者の手許には氷上郡柏原で山本義丸氏の採集された1♂標本がある（31-VII-1956）。また高橋 匡氏は豊岡市での産を報じておられる（1975, 1981）。いづれも比較的山地帯のように思われる。強いて言えば豊岡市が海岸線に近いかと思われる。日本海に面した地域にもいるのではないかと思われるが、今の所記録がない。この様に見てくると山地帯での本種の産出はほとんど無いようで海岸線沿いに分布しており好塩性の種のように思われるがどんなものだろうか。

筆者の手許には加治木氏採集の屋久島産1♂標本があるが（15-V-1933）、兵庫県産の標本に比して褐色味の強い緑色をしているが形態的の差異は認められなかった（小形）。

本種は7～9月に成虫は多く見られるようで猛暑の虫と言えそうであるが、烏原で採集したのは11月3日側溝でじーっとしていたのを採集している。生活史については見当らないように思われる。

ドウガネに就いて湯浅博士と遠藤氏によると（農事試験場彙報, Vol.3, No.2, 1938）、ドウガネの食餌植物は34科69種以上となっている（ドウガネの生活史並びに生態に関する文献は他にも大変多くある）。アオドウガネも相当多くの植物を食害すると思われるが（農林害虫名鑑, 1980では7種の加害植物名があげてある）、その害を大きく取り上げられた様な報文は見られなかった。何時

の日に問題になるかもわからないが（ポートアイランドでの採集は全部ハギに来ていたものであるが白い紙の上で展脚した所数匹のものからハギの花の色の薄紫赤色の体液を出したものが割合った。これを食していたようである）。

ところでこのアオドウガネに良く似た種のヤマトアオドウガネがいる。本種はArrow が新潟と朝鮮産で記載された種である（Ann. Mag. Nat. Hist. 8, Ⅷ, p. 401, 1913）。従来このArrow の記載した *Anomala japonica* は *A. viridana* (Kolbe, 1886) のシノニムとされてヤマトアオドウガネの学名は *A. viridana* が使用されていた。所が野村 鎮氏は *A. viridiana* とされているのは日本にいるものでなく朝鮮に産する *A. mongolica* に似た種で日本産のものは *A. japonica* として日本特産の種であるとされた（Ent. Rev. Japan, Vol. 21, No. 2, 1969）。

こちらの方が前にも記したように宮城、岩手、青森県あたりまで分布している種のようにであり（渡辺, 1937）、分布がより広いように思われる。野村氏は海岸近くに産するとしておられる（1963）。兵庫県下ではこちらの方がどうも少いように思われる（関西・中国地方では全般にアオドウガネより個体数が少いようである。お隣の岡山県では両種共少い種とされているがヤマトアオドウガネは真庭郡湯原町のような北部で採集されている。岡山県の昆虫, 1978. 蒜山の生物調査報告, 1973）。調査が不十分だからだとも考えられるが、今の所次の所で知られているのみである。

川西市多田（1♀, 19-V-1938, これは栗の花から採集した）。神戸ポートアイランド〔田中, 1983〕。明石市明石公園（1♂, 19-VI-1976, 1♂, 16-VI-1976, 1♂, 7-VII-1979, 1♂, 12-VII-1981. 明石公園にはアオドウガネと両方が得られる。この種の方が出現期が早いようである）。加古川市加古川畔（3♀♀, 24-VI-1955, H. Ishida leg.）。それと氷上郡〔山本, 1959〕の記録がある。今一つこちらの方の分布がよくわからない。大いに調べて見なくてはと考えている。

（Jan. 1984）